

グラビア	地域を支える人 坂下恭一さん・島根県吉賀町	1
発掘！地域の希望のタネ	〈おいらせを野外博物館へ〉青森県十和田市	5
用務にお任せ!	普段の環境整備が緊急時に役立つ・新潟市 矢川敏訓	6
書評	平本一雄 編著『持続する郊外—住民主導のアーバニズム』菅原敏夫	8
焦点	膨張する国の基金適切な運用に向けた課題 藤井亮二	10

特集

〈しまね自治研特集号〉

結びつなげる!! しまね自治研

メッセージ	自治研を自治の実践場とするために	山崎幸治	18
メッセージ	しまね自治研へのお誘い	須田晋次	20
自治研セッション	「備えて・つながる」ことで現れた次世代の汲み取り業の姿	前田 真	22
自治研セッション	語り合う中から生まれる仕事	西村佳哲	24
自治研セッション	仕事を極めるという生き様	藤井誠一郎	26
第1分科会	ようこそ島根へ～自治研入門リターンズ～	佐藤茂雄 岩本晃典	28
第2分科会	地方を変える、AIの力	村野祐輔 西岡芳宏	31
第3分科会	公務職場を魅力あるものにするために	宮脇拓也 嶋田暁文	34
第4分科会	もう知らないでは済まされない LGBTQ+【実践編】	榎田博之 仲岡しゅん	37
第5分科会	いのちを守る防災・減災計画	久保武士 樋口英明	40
第6分科会	地域公共交通の現状と課題	高本啓一郎 加藤博和	43
第7分科会	中山間地域の地域づくり	大崎康弘 藤山 浩	46
県特別分科会	世界遺産の町で学ぶ歴史と暮らし	仲野義文	49
本部特別分科会	地域から考えるカーボンニュートラル	森下 元 高村ゆかり	51
	しまね自治研 おすすめポイント		54
地域おこし協力隊が行く!	第16回 島根編◎松江市	塩谷夏輝	58
あの時、私の職場では	地域×スポーツの可能性を広げるために—松江市	高島 純	64
自治研活動レポート	「水道水の安定的継続供給」が使命	直江優介	70
	県本部自治研再始動～ROAD TO しまね自治研～ —石川県本部		70
	自治研センターの機関誌案内		16
	次号予告・編集部から		72



『持続する郊外』

住民主導のアーバニズム

青丘社、四四〇〇円

川崎新都心街づくり財団 監修  
平本一雄 編著

川崎市麻生区

川崎市麻生区といつても、全国の読者の皆さんは具体的なイメージをお持ちではないと思う。新百合ヶ丘（新ゆり）はどうだろう。最近映画祭などで有名になってきた。

東京と神奈川に接する多摩丘陵は戦後ニュータウンの実験場となった。北から



持続する郊外

住民主導のアーバニズム

川崎新都心街づくり財団 監修  
平本一雄 編著

日本最大級の多摩ニュータウン、真ん中に麻生区、南は東急電鉄の「田園都市」。麻生区は公団にも鉄道会社にも頼らず、農地をコツコツと宅地化、全体計画もな

く。麻生区は川崎市なのだけれど、電車で行くのに、川崎駅から行くより新宿駅から行く方が半分の時間で済む。行政からも遠い。麻生区自身が一九八二年に分離独立してできた新しい区。

東京の郊外の形成

先の三つの郊外ニュータウンの住民はそれぞれ多くは東京都心に通勤する。川崎市麻生区であれ、横浜市青葉区田園都市線たまプラーザ駅であれ。地元で地域づくりにはビハインドが多過ぎるような気がする。通勤先も行政も遠いのに。本書を読んで気がつくのは、小さな偶然、小さな資源が積み重なって大きなまちづくり運動に育っていく過程だ。

一九三三年この地に映画製作所ができ

た。フィルムの実像に多摩川の水が必要だったようだ。芸術の種がこぼれる。文学者・芸術家に移り住む、逃げるように、隠れるように。一九六一年に元中央公論編集者の藤田親昌が移り住む。藤田は本書に何度も登場するが、カウンターカーチャーの時代、民衆の側の表現を大事にする行動をとる。彼は戦中の四四年、横浜事件で検挙され、筆舌に尽くし難い拷問を受ける。後に市の教育委員などを歴任。

住民のシンクタンク

芸術のまちを作るには、有名なオーケストラの招致などではなく、卑小で美しくないことの方が必要なのだろう。

そのことを明らかにしたのは、徹底的な調査、インタビュー、アンケートだった。その実施のために、一般財団法人川崎新都心街づくり財団が作られた。住民の街づくりのためにはシンクタンクが必ずいる。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員